

「知の宝庫」によるこそ

図書館長に坂野明子文学部教授が4月1日付で就任した。任期は2年間。坂野館長に本との出会いや図書館のあり方などについてお話を伺った。

新図書館長に坂野教授



図書館というのは、自らが整っていない時代。大分と向き合える、落ち着ける場所という思いがずっとありました。思い出すのは、前任校の助教時代、米国の大学へ在外研究に行ったときです。まだネット環境

が整っていない時代。大分と向き合える、落ち着ける場所という思いがずっとありました。思い出すのは、前任校の助教時代、米国の大学へ在外研究に行ったときです。まだネット環境

が、加えてグループ学習やラーニング・コモンズにも対応しなくてはなりません。グループ学習では、サポートスタッフがアドバイスすることなど、今後検討していかなければと思っています。今年度から本格的に始まる学生のボランティア活動にも期待したいですね。

検索し、情報や知識が容易に手に入ります。ですが知性とか精神というものを培うには、受け手の蓄積がないといけません。そのプロセスを作るのはやはり本だろうと思います。検索して分かった、で終わるのではなく、本を読み、分らないところにぶつかり、あれこれ考えることによって、柔軟な、少しづつずつでも



「妖怪本」が並んだ本館。企画展に関連して、妖怪本が並んだ本館。企画展に関連して、妖怪本が並んだ本館。

立ち直る精神力が作られる。それが本の力ではないでしょうか。本学図書館にはたくさん本の宝庫があります。この「知の宝庫」を利用しない手はありません。

「武器よさらば」アーネスト・ヘミングウェイ著。主人公の米国人青年と英国人看護婦の大恋愛のプロセスが丁寧に描かれています。そこ面白いのですが、国家が行う戦争の狂気とか暴力性とかを非常に鋭く、説得力ある形で書いています。若い皆さんが読んで、しみじみと考えたり感じたりしてほしいものです。

トとは違う空気が吸えます。ほんの10分でも図書館に来て、ぶらぶら歩き、タイトルを眺めてみてください。人生を変えたい一冊が、そこにあるかもしれません。(さかの・あきこ、専門はアメリカ文学)

専修大学には生田・神田の両キャンパスに図書館が計4館あり、新聞雑誌から文芸書、専門書論文など多種多様な「知」が集積されている。ほとんどの蔵書が開架となっており、利用者が書架から直接手にとって利用することができる。



▲ 神田分館のAV・PCラウンジ

学習エリアがあり、AV・PCラウンジではパソコンでの情報検索やDVDの視聴などが可能だ。2014年からは本館などでノートパソコンの貸し出しも行っている。

図書館と学生の懸け橋として期待されるのが、本年度から始まる図書館ボランティアだ。本館と神田分館で5月から募集を始める。昨年度、試行的に実施したボランティアに参加したライブラリアンクラブ愛好会の近藤隼太さん(文4)に話を聞いた。

数字で読み解く専大図書館 (2015年度)

- 総蔵書数 **184万9432冊**
 - 本館 126万7867冊
 - 生田分館 8万2793冊
 - 神田分館 47万6346冊
 - 法科大学院分館 2万2426冊
- 新聞・雑誌数 **2万2412** タイトル (2016年3月末現在)
- 年間総貸し出し数 **14万3799冊**
- 年間延べ利用者数 **69万4749人**

入学配布ガイドを配布。2017年入学ガイダンスを5月下旬から配布します。ご希望の方は入学インフォメーションセンターまでお問い合わせください。

黒田投手の「専茶」とマグカップ発売中

本学野球部OBで広島東洋カープの黒田博樹投手(平9商)の雄姿をあしらった専修大学オリジナルのペットボトル「専茶」とマグカップが発売中。期間限定商品。マグカップは直径80mm、高さ95mm、1000円(税込み)。150個限定。いずれも生田キャンパスの購買会、セブンイレブン、神田キャンパス地下1階インフォメーションで販売。「専茶」は学内の自動販売機でも購入できる。

ごみ分別迷わない ネット情報・飯田プロジェクト

川崎市とアプリを開発

ごみの分別方法を検索、収集日を知りたい、収集日を知らせたい、空きビン容器の場合は「空き」と表示される。検索ワードは1万品目以上。川崎市との共同開発で、4月1日から運用開始。利用した市民からは「ごみ出しのときに迷わなくなった」と好評だ。

川崎市の依頼を受け、昨年度のプロジェクトで開発に取り組んだ。メンバーは岩村圭太さん、川口修平さん、浜畑慶太さん、平井達人さん(すべて4年次)。プログラミン、分別のためのデータベースづくり、デザインなどを分担して行った。

例えば「マヨネーズ」をアプリで検索すると、

▲ アプリを開発した岩村さん、平井さん、浜畑さんと飯田教授(右から)

制作を通じてごみ問題に対する意識が高まった。岩村さんは「資源を徹底されていない。アプリは運用開始から半月で4千ダウンロードを記録し、同課は「アプリを通して分別の意識を高めてもらえたら」としている。

「試行錯誤を重ね、隅々までかっこいいデザインになった」と浜畑さん。「少人数でも良いものを作ることができる」ともものづくりへの自信を深める川口さんに対し、飯田教授は「学生が悩み考えながら作ったアプリ。よくできている」と及第点を与える。

アプリはスマートフォンやタブレット端末でダウンロードできる。

とアピールする。市環境局減量推進課によると、普通ごみに資源ごみが混ざるなど分別が徹底されていない。アプリは運用開始から半月で4千ダウンロードを記録し、同課は「アプリを通して分別の意識を高めてもらえたら」としている。

実際の画面